RUGBY WORLD CUP™ JAPAN日本2019

ワールドカップが“花園”にやってくる

摂南大学ラグビー部総監督に聞く

元日本代表　河瀬（かわせ）　泰治（やすはる）さん（60歳）

イングランドとのテストマッチでプレーする河瀬さん（左から2人目、花園ラグビー場で）

抜群の身体能力で高校時代から〝怪物〟と騒がれ、大学や社会人の強豪チームで活躍した摂南大学ラグビー部総監督の河瀬泰治さん。ワールドカップ（W杯）の第1回大会にも出場した元日本代表に、9月20日開幕のW杯日本大会やラグビー人生を語ってもらいました。

高校では「花園の怪物」の異名を取りました。ラグビーとの出会いは

中学校では柔道をしていましたが、大阪工業大学高校（現常翔学園高校）へ入学試験の願書を取りに行ったときのことです。高校ラグビー界の名伯楽と言われ、当時監督の荒川博司先生から「君、中学生か。ラグビーをやってみないか」と誘われました。

京都大学のアメリカンフットボールで日本一になった兄の姿を見て団体スポーツに憧れていたこともあり、大工大高に入るとすぐラグビーにのめり込みました。1年生から試合に出してもらい、初優勝は3年生で主将だった高校最後の大会でした。

大学では「伝説のナンバーエイト」と呼ばれました

ラグビーは、体格のいいフォワードと足の速いバックスに分かれます。身長188センチメートル、体重96キログラムと体が大きかった私はフォワードの選手が憧れる明治大学へ。シンボル的ポジションのナンバーエイト（NO8）で2年生のときに全国大学

選手権で優勝しました。

ところが3年生のときに練習で頸椎を痛める大けがをし、「もうあかんのか」と落ち込みました。そんなとき、後に、車いすバスケットで6度もパラリンピックに出た女性など、もっと大きなけがをしながら懸命に生きている人たちと出会いました。「自分の悩みなんか小さい」と気づいてからはリハビリも進み、けがから7か月後に退院。4年生で2度目の大学日本一をつかむことができました。

社会人の名門チームを辞め、摂南大学教員で第1回W杯メンバーに

元々教員になるのが夢でした。このことを知っていた恩師の荒川先生が母校の学校法人に働きかけてくれており、東芝府中（現東芝）を3年で辞め、摂南大学に教員として迎えられました。翌年の第1回W杯はどうしても出たくて、自身の努力で日本代表をつかもうと決意。練習量はこなせましたが、ゲーム感覚を維持するのが大変で、代表メンバーに選ばれたときはうれしさと同時にほっとしました。

期間中に28歳の誕生日を迎え、「これが最後の大会。悔いのないように」と臨みましたが、初戦と2戦目に出られませんでした。すると大八木（淳史＝元神戸製鋼）選手らが「なぜ河瀬を使わないのか」と監督に進言してくれ、最終戦に出場しました。すでにグループ戦の敗退は決まっていましたが、優勝候補のオーストラリアを相手に24－42と善戦し、後輩たちに手本を示せたと思います。

コーチとして第3回W杯にも参加しましたが、こちらは大敗でした。当時、日本はアマチュア規定が厳しく、昼は一般社員と同じように働き、仕事が終わってから練習。プロ化が進んでいた海外と練習環境の差は大きく、日本もW杯で戦うためにプロ化へ進むだろうと感じた大会でした。

ウェールズに遠征した河瀬さん（左端）ら日本代表

指導者でも活躍。摂南大でラグビー部を関西大学のトップリーグに

U－23日本代表監督なども務めました。摂南大学では「学生たちに元気と勇気を与えてほしい」と頼まれ、ラグビー部監督を引き受けましたが、そのときの部員は8人。「ラグビーで教育を」を基本方針に部員集めから始めましたが、今は関西大学Aリーグで戦い、部員120人の大所帯となりました。

日本で初開催のW杯。楽しみ方や見どころは

日本はロシア、アイルランド、サモア、スコットランドの順に戦います。大会前に花園ラグビー場で行われたトンガとのテストマッチを観戦しましたが、代表チームの緊張感や結束力が伝わり、頼もしさを肌で感じました。決勝トーナメントに進むためのポイントは最初の試合です。第1回大会のときは初戦のアメリカにキックのミスなどで競り負けましたが、勝っていたら流れも変わっていたでしょう。

注目選手は、攻撃の起点となる松島幸太朗選手（サントリー）と、スピードが武器で医師志望という異色の福岡堅樹選手（パナソニック）。次の時代につながる選手の活躍を期待しています。

ラグビーの魅力は、どんな人でも頑張れる場所があることです。体格のいい人はスクラムを組んでボールを取り、足の速い人はトライを奪いに行くように、チーム15人がどこかで力を発揮できるのです。まさに「ワン・フォー・オール　オール・フォー・ワン（一人は皆のため、皆は一人のため）」という紳士のスポーツ。今大会では、こんなところにも注目してみてください。

ラグビー人生を語る河瀬さん

ラグビーワールドカップ

オリンピック、サッカーW杯と並び、世界3大スポーツイベントの一つで、4年ごとに開催。1987年にニュージーランドとオーストラリアで開かれた第1回大会は、世界の国・地域から16チームが出場しました。9回目となる日本大会は20チームが参加し、9月20日から11月2日まで聖地花園ラグビー場（東大阪市）など12会場で予選のプール戦と決勝トーナメント戦が繰り広げられます。

第1回大会に出場した河瀬さんは「世界の代表が一堂に集まったのはこのときが初めてで、その熱狂ぶりはそれまでのテストマッチとは全然違いました。日本もぜひ盛り上がってほしいし、その熱気を継続してほしい」と期待します。